第 213 号　令和 7 年 2 月 23 日発行

中田かわら版　3 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会　　協力：中田連合自治会　泉区役所
制作：中田かわら版制作編集委員会　　横浜市踊場地域ケアプラザ

中田の情報を YouTube で発信

「なかだ TV」始動　第 1 回番組は共働舎のコンサートを紹介

番組でコンサートの取り組みなど横浜泉ロータリークラブの活動を説明する青木昌一会長（中央）ら 3 人の出演者

中田の町の話題をユーチューブ番組で配信する「横浜なかだＴＶ」（愛称ナカティービー）が開局、第1回の番組を2月3日に配信し、地域の情報発信活動としてスタートしました。

中田地区経営委員会のプロジェクトの中で立ち上げた「中田編集局」の取り組みの一つで、これから地域の多様な話題を広くタイムリーに知ってもらえるように映像を使った番組づくりを随時進めていきます。

初回の番組は、1 月 24 日に社会福祉法人「開く会」の事業所「共働舎」で開催された「ふれあいミニコンサート＆食事会」の様子を紹介、これを主催した横浜泉ロータリークラブの青木昌一会長にコンサート企画の狙いや当日の通所者との交流の様子などを説明してもらいました。同クラブの社会貢献活動として毎年取り組んでいるコンサートですが、コロナ禍で 3 年間中断していたので久々の開催。今回はピアニストの丹生谷佳恵さんとクラリネット奏者の高井洋子さんを招き、共働舎の通所者の皆さんと一緒に演奏を楽しみました。約 30 分のトーク番組のようなスタイルで地域の動きを伝え、「地域の情報をみんなで共有する」ことで地域活動をさらに活発にしていこうと企画した番組ですので、ぜひ、ご覧ください。

（掲載のＱＲコードから第 1 回の番組が出てきます、また「横浜なかだＴＶ」で検索してみてください）

＜誰もが情報発信者になろう！住民ディレクター講座など「中田編集局」の活動＞

誰もが情報を発信できる時代に、誰もがローカルメディアの担い手になっていく地域活動として「中田編集局」の活動が昨年 10 月から始まっています。

地域の情報を住民が共有して、豊かなコミュニケーション活動が活発になることで「街の魅力」を自覚し、地域への思いを醸成するのが狙いです。その地域情報の共有のため、自らが「発信者」になる人たちを増やし多様なローカルメディアの担い手を育成して、「魅力ある街の情報」を伝える活動を活発にしたいのです。単に地域の情報を発信するだけでなく、分野を超えて地域に関わり「地域の編集者」の役割を果たす「住民ディレクター」を育成し、子どもを含めて住民が地域情報を共有しやすい町にしていこうとイメージしています。そのための拠点としての「編集局」であり、その第一歩として、「住民ディレクター講座」と「メディアリテラシー講座」という 2 本立ての連続講座などを進めています。

12 月には、「闇バイトの情報に騙されないメディアリテラシーを身に付けよう」と、闇バイト対策のネットゲーム「レイの失踪」を開発した「クラスルーム・アドベンチャー」というスタートアップ企業を立ち上げた大学生を講師に招いての講座、2 月には「コミュニティ・メディアで地域はどう変わるか」をテーマに金沢区で開局して 3 年目のラジオ局「金沢シーサイド FM」の社長に話を聞く講座を中田町会館で開くなどして、活動の幅を広げています。

地域情報を発信する取り組みを広げていきますので、皆さんもぜひ参加いただければと期待しています。

（鈴木賀津彦）

記事にある情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ　嶋（しま）まで問い合わせください。
TEL　801-2114　FAX　801-2923

■この人に会いたい〈78〉

シニアクラブを率いて 15 年！

中田地区シニアクラブ連合会会長　勝野　紘さん(83)

健康そうに日焼けした笑顔には人生を刻んできたかすかな彫りが見え、眼鏡の奥の優しいまなざしが人柄を表している。

勝野　紘（ひろし）さんは、現在、中田地区シニアクラブの会長の重責を担う。

シニアクラブの活動では「友愛活動」のトップとして泉区シニアクラブ連合会から横浜市老人クラブ連合会までの広範囲を永年にわたり務めてきた。その成果はめざましく「中田に勝野あり」と高くその名を馳せている。

勝野氏の行動範囲は、地域の福祉・奉仕活動にも及び、地元の山百合自治会の会長をはじめ、数々の要職を経てこれを実践してきた。また、健康スポーツに注力し、とりわけ、地域のソフトボールの選手として、最近では役員やスコアラーとして、かけがえのない存在になっている。

■　　■

勝野氏は長野県の生まれ、母親の愛情のもとに育まれ地元の工業高校を卒業後、志を胸に昭和 35 年 18 歳のときに上京、社会生活が始まった。

会社では精密プレスの金型設計の従事、製品図からそれを作り出す金型の設計は極めて特殊な才能を必要する。金型職人が作りやすいように各パーツに分割して図面を描いていく独創的な技術力は余人に代えがたいものがあり、請われてこの道一筋に 50 年続けることになる。この間、体育指導協議会に入会し、体育指導員として 10 年間青少年の指導に携わってこられた。

転機が訪れたのは退職後の平成 22 年、地元山百合自治会長をされていた中島憲五氏（市議会議員）の急逝により自治会長に就任、同時に老人クラブの会長も引き受けたことからである。

以後、向こう三軒両隣りのお付き合いを大切にと、支え合い・助け合いをスローガンに地域の活性化に尽力。併せて村岡川の清掃活動や登下校児童の見守りなどの奉仕活動に八面六臂の活躍で忙しい。

勝野氏には心のぬくもりを感じる人柄に魅せられてみんながついてくる。シニアクラブを率いて 15 年、まさしくリーダーシップのお手本と言えよう。

昭和 45 年、県の分譲地に当選してから移り住んだところに、2 人の孫に囲まれ 7 人家族でにぎやかな日々を過ごしている。　（田中　進）

[訂正]2 月号 1 面深谷通信隊跡地の記事 3 行目にある「通信送受診」は「通信送受信」の誤りでした。訂正致します。

編集後記

「小島民俗資料館」の閉館により生前、小島貞雄氏が残された歴史書や俳句など膨大な資料が当主小島佐利氏のご厚意で 5 度にわたり公開、展示された。「泉区歴史の会」、「中田かわら版」のメンバーが中心になり整理、調査に当たったが、貴重なものがたくさん出てきた。私が探していた貞雄氏の著書で句集「愉しき農夫」や俳句の同人誌「冬草」も始めて見ることができた。俳号で貞永、火山が小島貞雄氏と同一人物と確認ができたのも収穫だった。　（宮田貞夫）

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会
委員長　宮田貞夫　　編集長　松本 正
編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋　宏之